

語り継ぐ、明日へ。

歴史はいつも未来へのみちしるべです
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら
いつか来た道まで戻ってみましょう



女跳びつて覚えてますか

春一番の外の遊びに男女でできるゴム跳びがありました。ゴムは輪ゴ
ムを長くつなげたもの。二人で両端を持って立ち、高さをひざ、腰、胸、
肩などとだんだん高くしていきました。低いうちはまっすぐ走り込んで
跳び越せましたが、高くなると「女跳び」といつて片足でゴムを抑える
ようにして跳びました。女の子は「きんし輝く日本の あいこでアメリ
カヨーロッパ」などと歌いながら、足に引っかけたり飛び跳ねたりもし
ていましたね。各地で様々な歌詞のあるこの歌は、昭和十五年の紀元二
千六百年祝賀の歌の変形でした。ずっと後になって知ったことですが。

ひと街ごと 39

- ・時の街角／旧小川家酪農畜舎——2
- ・マチの博物館／ムーランルージュ——3
- ・川筋を行く／千歳川——4
- ・来た道行く道／自転車の進士商会——5
- ・あるはむレトロポリス／札幌まつり——6
- ・道具で道草30年——7
- ・本の話①——8

二〇二二年 春(年四回発行)

発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南十五条西十八丁目
TEL(011)561-1598

編集：ひと街ごと刊行会

札幌市中央区北一条西十七丁目 北海道不動産会館四階
(向)編集工房海内 TEL(011)633-1651

時の街角

北海道開拓の村から



ついでこの間まで街中にも残っていたような気のあるマンサード屋根（腰折れ屋根）の家やサイロもはや遠い郊外でもなければ見られなくなり、その北海道開拓の原点、牧場にあった建物です。

懐かしい屋根の形 サイロのある風景。

旧小川家酪農畜舎 — 大正末期建築

札幌農学校に始まる北海道の酪農の歴史。学び舎ばかりでなく酪農施設や牧場の建設地もまず札幌からでした。国の重要文化財に指定されて

いる北大第二農場の畜舎や、エドウィン・ダンの真駒内牧場などがそれ。乳牛を飼う農家が增え、酪農経営が成り立つようになったのは明治末ころからです。

小川家の酪農経営の創始者は小川美雄という人ですが、義父の小川三策が札幌農学校出身でした。三策も当初は酪農経営を目指したのでしよう。豊平町（旧所在地）に土地の払い下げを受け、アメリカから畜舎の図面まで取り寄せました。しかし教職



牧場のメルメン——北海道的風景

にあつて道外へ転出。後は養子の美雄に託したということです。

木造二階建ての畜舎の建築は大正末ころ。大きな特徴は、今日のツーバイフォー工法の原型でもあるバルーンフレーム工法で建てられていることです。この工法は十九世紀末、開拓時代のアメリカで考案されたもので、規格化された骨組み

に、外装材を釘で打ちつけていくだけで建てていきます。前述の北大の畜舎（モデルバロン）や札幌時計台も同様で、洋風建築の広がりがあります。

畜舎でまず目を向けてほしいのがマンサード屋根（腰折れ屋根）。かつては市街地の民家にもよく見られたものですが、ここは珍しくトタンでなく桤葺きです。

そして内部は、牛房と呼ばれる牛の寝床がメインです。前列に九頭、後列に三頭。搾乳牛と育成牛に分けてつながっていました。テレビなどで見ている牛の世話をする様子も、ここへ立てばよりその大変さを想像することができるよう。

畜舎の隣に建つ石造のサイロ。これもめつたに見られなくなりました。



いつの間にか街中から消えたサイロ
素材は札幌軟石のようだから
歴史的遺産でもある

ご存じのとおりサイロは、牧草やデントコーンなどを発酵させて、サイレージという甘酸っぱいエサにします。当初は地面に穴を掘り、その上に丸太を組んで燕麦殻を葺いたものでしたが、昭和四十年ころに石積みで足したそうです。石はおそらく札幌軟石ですが、その意味でも貴重な建物です。



牛に餌を与え乳をしぼり、一日たりとも気を抜けない酪農家の苦勞が伝わってくるが、マンサード屋根のたたずまいに何かしらホッとす

※参考文献 北海道開拓の村・開村10周年記念誌

糸を編んだり織ったりすることの好きな女性なら人にはない色や柄の糸を取り混ぜてオリジナルのデザインを楽しむためのもの常に三千種類の糸をそろえてニーズに応じています

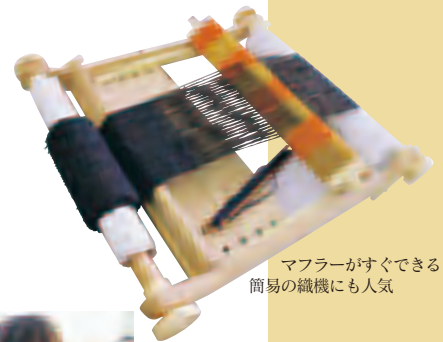
「残糸」を格安で。デザイン性に優れた

オバマ米大統領の就任式でミシェル夫人が着用したニナリッチのカーディガンといえば、ご存じの方も多いことでしょう。そのカーディガンの素材、極細のモヘア糸を開発した山形県の佐藤繊維が一躍、世界のファッション業界から注目を浴びた出来事でした。

編み糸と織り糸の専門店のこちらに、同社から仕入れる同じ糸もあると聞いてびっくり。「でもそれは残糸だからできることなのです」というのはオーナーの久保重希子さんです。残糸とは、アパレルやニットの高級ブランド品に使用された後に残った糸のこと。デザイナーが洋

服などを作るときに糸からプロデュースしたものですから、デザイン性に優れていることはもちろん、価格的にも格安で手に入ることが大きな魅力です。

久保さんが「残糸だけを扱う店は全国的にもうちぐらいではないでしょうか」というくらいユニークな形態に、ネット販売には本州からもたくさんの注文が入ります。オープンして四年目に入ったば



マフラーがすぐできる簡易の織機にも人気

巻き取り機を動かす義妹の香緒利さん



糸車を踏みながら羊毛を紡いでみせてくれる久保さん

かりですが、すでに三千点もの品揃え。そもそもは母親の吉田えり子さんが、二十年以上染色工房を主宰してきた過程で糸の面白さを知ったことから。お母さんの方は現在、旭川のマルカツデパートに出店しています。

こちらは扱っている糸の素材の大きな分類です。久保さんの説明を借りますと、夏糸なら綿、麻、冬糸ではウール、カシミア、アンゴラ、アルパカなど、オールシーズンがシルクということで

ます。コインアップという三連の巻き取り機械が活躍する糸の販売は五〇グラム単位。五〇〇グラムあれば一着のセーターが編めるそうです。



オーナーの久保重希子さん

す。それ

それに太さや色の異なるものがあります。細目のものを多く揃えてあるのは、お客さんに何本か合わせて使ってもらいたいからです。合わせるには撚りかけないという意味。「手芸店の糸は撚りかけられた状態で売られているため、作品が硬くなってしまう」（久保さん）とか。そのふわっとした仕上がりの良さが広



見るだけでも楽しくなる色とりどりの糸



自分で選んだ糸で編んだり織ったりしてみたい。創作意欲をかき立てられる店内

3000点の品揃え。ネット販売は本州からも注文

<http://akaifuusha.exblog.jp/>

千歳川

川筋を行く

人と川の
様々な
かわりを
たずねて

市街地を貫流。市民の散歩道

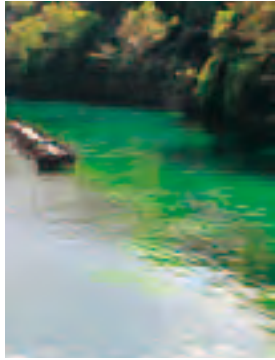
支笏湖から流れ出た清流 江別市で石狩川に合流。

日頃の環境維持活動の成果もあってのことでしょうが、市街地を流れる河川でこれほど美しい川があるかとおそらく誰もが感心させられるのが千歳川です。支笏湖に源を発するとあればこそでしょうが

空港との行き

来ぐらいで千歳市内をあまり歩いたことのない人に、川淵をのぞくだけでもお勧めしたいのが、国道三六号に架かる千歳

澄んだ水をたたえた支笏湖が水源



流れ出し付近のエメラルドグリーン



湖畔の山線鉄橋。ここから流れ出す

水辺に生い

茂る葎、流れの中に
漂う水草の緑——早朝

にはルーア竿を振ってトラウトの類を狙うアングラーも見かけるくらいですが、いかに水が澄んでいるかわかるでしょう。

その源は支笏湖に発するといえ、水の美しさにも納得がいきます。湖西岸にそびえるフレ岳（一〇四



名水ふれあい公園にある小さな水車。緑と清流が一体となった美しい景観



緑の中にある千歳市蘭越浄水場「北海」号機

なぜか浄水場に航空機六（い）麓を水源とする記述も見えますが、そうすると同岳麓を流れるオコタンペ川やその上流のオコタンペ湖も考慮に入れなければならず話がややこしくなりそうです。やはり水源は公称の支笏湖で、支笏湖から流れ出した千歳川に、



36号線の千歳橋から下流方向川沿いを歩いていける



右／市役所などのある中心部左／買物ゾーンの仲之橋



JR千歳線近くのグリーン清流を見ながらの散歩だ

これまた同湖の伏流水が原生林の中に湧き出したナイベツ川が合流する地点にあるのが千歳市蘭越浄水場。同川は環境庁の全国名水百選にも選ばれており、一帯は名水ふれあい公園として親しまれています。浄水場から供給される水を味わえるほか、両河川の美しい流れを目の当たりにすることが出来ます。合わせて大正十五年に千歳空港に初めて着陸したという航空機「北海一号機」の展示も。そして千歳川の美しさを最も証



観光客にもおなじみのインディアン水車



サケのふるさと館にある淡水魚が回遊する大水槽

向こうの石狩川との合流点（江別市）

際立ちます。同館を後にした千歳川は、恵庭市や長沼町、南幌町の境界線となりながら、やがて江別市で石狩川に合流します。そのけつして澄むことのない石狩川との合流点に立つと、支笏湖や千歳川の美しさが



来た道、 行く道。

様々な先達がいるからこそ
二十一世紀があるんだよ——
スローコミュニケーションを求めて。

本欄への自薦他薦を
お待ちしております。

米寿を迎えてなお店に立ち、かくしやくとした受け答えは、八十歳近くまでシーズン二千キのサイクリングをこなしてきたという賜物でしょう。珍しい苗字とともに、道内の古い自転車屋さんで進士正道さん(八)のことを知らない人はいないようです。



父の仙太郎さんが作ったヤットコ類
大正時代のものだが今も役に立っている

三重県出身の父親、仙太郎さんが大正十年(一九二一)、東区北七条東四丁目創業した進士商会です。「工場

で生まれたようなもの」という正道さんは、小さいころから見よう見まねで修理技術を習得し、高校を卒業してすぐ店に入りました。店の九十一年の歴史の中で七十一年間、第一線で切り盛り。それも徴用や召集という戦争を経験してのこと

ですから、まさにこの道一筋です。それだけに自転車や業界の変遷については生き字引のようなもの。大正末期の一台六十円の輸入車が主力の時代から初の国産車の登場、昭和三十年代の荷物運搬用、並行して三段変速付きやドロップハンドル。そしてオートバイや軽自動車



70年のキャリアであらゆる故障・修理に対応する

湾や中国から安い製品が入ってきて自転車屋さんも大きく減少——進士さんの話のダイジェストです。こちらも盛業の時には従業員を三、四人も使い、一軒家を建てて寮の代わりにしました。クリーニング店も兼ねた現店舗は、平成十六年までは伏古店として活躍。「健康のために始めた」という奥さんの浪子さんが、クリーニングの受け渡しの傍ら修理の自転車を預かり、夜、正道さんが北七条店から帰宅して作業にあたるという二店舗かけ持ちでした。



ライターになっているミニチュアの自転車

自転車の進士商会
札幌市東区伏古8条5丁目3-12
TEL(011)783-3699

自転車修理という
とパンクぐら
いしか
思い当た
らない人もい
るでしょうが、
事故でつぶれ
たり曲がった
りした箇所やブレーキ系統、フレーム、スポークなどの修理と様々。周辺に学校が多く、生徒たちの利用も多いと聞きま



昭和45年から参加している
全国サイクリング大会の記念バッジ



上/40年間乗っている愛車、山口ベニックス
下/奥さんのクリーニング店と一緒に

愛車も40年来の友、 米寿迎えてなお 自転車と生きる。

進士正道さん——札幌市・自転車の進士商会



進士正道さんと奥さんの浪子さん

ただ、安

ピールしました。

千円まで(進士さん)。それ以上は買い替えるでしょう。でも進士さんは言います「自転車として安心して乗っていただけるのは二万五、六千円以上のものであれば」。



工具や部品類がコンパクトに収められた仕事場は朝8時から開始

そして全国サイクリング大会にも、第十四回静岡大会(昭和四十五年)から四十七回大分大会まで毎年参加。三年前は函館での大会に参加して、ベテラン健在をア

札幌東自転車組合の組合長を務めていた。輝かしいのはサッポロサイクリングクラブ終身名誉会長。進士さんが仲間と昭和四十七年に設立したもので、その歴史とともに四十年間乗り続けている山口ベニックスが今も現役です。



昭和50年、中央区南1西28付近で

札幌まつり（北海道神宮例祭）

北国に初夏の訪れを告げるまつりといえは今やYOSAKOI
や遅れて開催される札幌まつり（北海道神宮例祭）は
もはや規模も小さく沿道の人波も少なくなりました
あの鼓笛隊の行進に心が躍る人もどのくらいでしょう

初夏の風物詩、百四十年。

子どもみこし、集まれ！で、こんなにチビッコたち
一年で一番のイベントにキリッとした姿
昭和27年、北区北8西1で
（上4枚は札幌市文化資料室所蔵）



上は昭和45年、中央区北1西22付近
下は昭和34年、北1西4付近 いずれもたくさんの人出

本州から転勤してきた人が、祭りの日は官公庁や会社、学校が休みになるのを不思議がっていました。暗に休校に異を唱える先生が生徒にいわく「これはあくまでも郷土の祭りだからね」。そう、これはまさに郷土の祭りなのです。

まず誇ってよいのはその歴史でしょう。「中央区 歴史の散歩道」(札幌市中央区)によりますと、「札幌神社(北海道神宮)の例祭が六月十五日と決まったのが明治五年(一八七二

年)とあります。その年だけは幣帛へいぼくの到着が遅れたため七月七日に行われましたが、以後ずっと今日まで十四日宵宮祭、十六日渡御の三日間開催です。神輿みこしの巡行、芸妓や鳴り物の踊り舞台、山車の練り歩きといったスタイルも、明治中期までに出来上がっていました。

これだけ歴史のある祭りですから、人それぞれの思い出があることでしょう。さっぽろ文庫68「札幌まつり」に当時の桂信夫市長が一文を寄せ、

神輿渡御に従っている
さい銭箱にお金のほか
お米を入れて
いる人がいたことや、
戦後の一、二年は神輿
がトラックに乗せられ



昨年、ススキノ十字街で。伝統をいつまでも――

季節はちょうどアカシアの咲くころ。甘い香りが風に乗ってきます。YOSAKOIが始まったのが二十年前。その年々の盛り上がりのおかげで、静かに初夏の風物詩としての存在感を保っているのが札幌まつりでしょう。今年百四十年目です。

ていたこと。また手古舞てこまいのシャシヤンと錫杖しやくじょうを突く音、お稚児さんの真っ白な目鼻立ちなどに胸が躍るような気持だったと書いています。

馬車が消え、草履がスニーカーになり、アルバイトの学生のヘアスタイルなどにも時代の変遷が感じられます。しかし中高年以上の市民には、やはり夏の風物詩といえはこの昔ながらの神輿渡御でしょう。新聞で繁華街の行進時間を調べて、買い物や場所取りする人も少なくありません。

道具で 道草30年

市街地から古本屋も姿を消していく。昨今、筆者が三十年以上通ったその店も閉じる日がきた。解体した本棚を譲り受け、ストロブにくべながらの回想だ。

坂一敬

レトロスペース坂会館・館長（坂栄養食品 開発部長）

今回は私が三十年あまり通いつめた、ある古本屋さんの話をしたいと思う。その店は西線の方から四丁目に向かつて行く電車沿いの、西十三丁目あたりにひっそりとたたずんでいた。

周りがビル化していく中で、平屋のポロツちい木造の造りで、お世辞にも立派とはいえないけれど、無性に私をひきつけるお店であった。古書店のような敷居の高さは全く無く、アットホームな雰囲気漂う、居心地の良い空間であった。

きつと店主の竹内君の人柄がそうさせたのだろう。

私が感心したのは、この店がお客を一切差別しない店であったということ。たとえ相手がちり紙交換のおつちやんでも、——他の店なら、どうせ拾ってきたものだろうという態度で「はい一箱五百円でよかったです」などと決まっていたこと。

ダンボールの箱を開け、カウンターの上に積んで一冊ずつ値をつけていたこと。

また、お客の無知につけこんで安く買い叩くようなことは絶対にしなかったこと。客からは極力高く買い、店の取り分を少なくして安目の値段をつけていたこと。

私がいつ行っても、必ず買いたい本が一冊や二冊はある店であった。後半は老眼が進み、細かい字が読みにくくなり、エロティックな写真雑誌

ストロブで燃やす 「なづな書館」の本棚。

誌しか買わなくなったのだけど、カウンターに持って行くと黙ってナイフでビニールの袋を破り、中を見てからどうぞと言ってくれた。

こんな古本屋は他には知らない！
そうでなければ、支店の二つや三つは出せたらと思う。

竹内君とはずいぶん親しくなり、彼も私の所に来たし、私も彼の家に泊まりにいった。クリスマス頃のになると、家に父の葬儀の時のお返しに使った千秋庵の商品券が大量に残っていたから、それで西十五丁目にあるお店でデコレーションを買い、元同志社大生共闘の横谷君や、元北大平連の早川さんたちと男だけのパーティを開いていた。

昨年の暮れ、店に行くと言った。「まだ誰にも言っていないのだ

けど店を閉じようと思っている」と。私としては言うべき言葉はない。年が明けて、店に飛んで行つた。欲しい本は手当たり次第に棚から抜いて

クシーで家まで運んだ。次の日、買い物袋の底をベニヤで補強した袋を二つ持って店に出かけた。肩に来る重さを感じたけれど、何とか十五丁目の電停まで運んだ。

目を閉じて、店を閉じる最後の日、私



上／閉店の日、筆者をはさんと竹内店主夫妻
下／筆者の自宅に積んである解体した本棚
店主が進呈すると言ってくれた戦前の「赤旗」縮刷版

カウンタートに並べた。量が多すぎて、とても西十五丁目の電停まで運べない。せっかくなので半分にしてくれたのにと思っただけで、やむなく夕

が着いたのは午後八時を回っていた。普段なら閉店の時間。でも店には電気がついており、二人の客がいた。今年学校を卒業し就職が決まったのだけれど、まだ給料を貰っていないので、貰ったら買う本はこれとこれ

という若い人と、早川さん。竹内君曰く「今日は時間は無制限」。若い客も車で来ていたし、私は早川さんが本と一緒に家まで送ると言ってくれたので大船に乗った感じ。カウンターにはファンのお客がくれたという花束が並んでいた。

夜が更け店を閉じる時、竹内君が私にプレゼントしたいと言って大判の冊子を差し出した。戦前の赤旗の縮刷版の全巻揃いである。これには思い出がある。若い頃、これは欲しかった。でも揃いでなぞとも買える金額ではない（今でも万の世界だろう）。でも第一巻だけは買った。

その後、全巻買った。だから彼の申し出はすぐ嬉しかったけど、理由を話して気持ちだけ貰うことにした。（素直に受ければよかったかなーとも思う。）

店を出るときは原状回復だから、本棚は全て外さねばならない。彼と奥さんの恵子ちゃんと元弟子の丸谷の三人で丸鋸で切断した棚は、全て我が家に運びストロブで燃やしている。三十五年の乾燥だから実によく燃える。そして私を暖めてくれる。なづな書館、札幌最後の古本屋。その灯りが一月二十一日、静かに消えていった。



本の話

1

49ページ以上あるのが「本」?

百科事典の代名詞「ブリタニカ」が書籍版244年の歴史に幕！インターネットの無料百科事典に押されてついに電子版だけになるそうです。「本」の概念が変わりつつある時代に、あえてその主張？を聞きましょう。

活字の衰退、出版点数の減少が毎年のように取沙汰されますが、実際には巷にあふれる本の数々。でもハードカバーの新刊本も、広告ばかりのパンフレットまがいのものも同じ「本」なのか、疑問に思ったことはありませんか。じつは本にも定義があるにはあるのです。

ユネスコが1964年、加盟国に対して行った勧告によりますと、本とは「表紙を除き、少なくとも49ページの不定期刊行物」とされ、広告目的のものや時刻表、電話帳、楽譜や地図など文章が主でないものは除外とされています。ここでいう49というページ数に、本の一つの意味が込められているようなので、それを探ってみましょう。

本のページ数は、多くは8や16の倍数で終わっています。1枚の紙を4つに折って8ページとし、さらに2つに折って8つ折りにすれば16ページになります。この8ページないし16ページを何組かまとめて背中を綴じているからです。

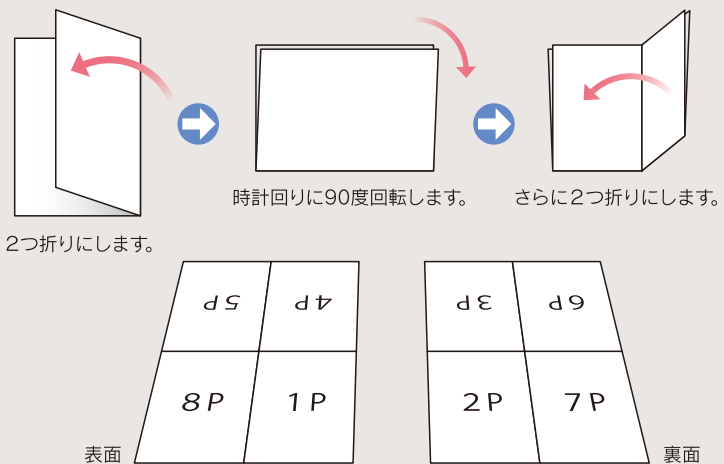
3組で48ページの本となり、プラス8の56ページともなると背表紙ができ、タイ

トルの背文字も入れられて最低限の「本」に。綴じ方によっては50ページの本も可能ですから49ページ以上という定義になったのでは——というのはこじつけに過ぎるでしょうか。

1枚の紙の裏表に印刷し、折って端を

綴じた時に、ページが順番に並ぶようにページ数を振ったものを「折り丁」といいます。乱丁や落丁は、製本の過程で生じるこの折り丁の組み合わせのミスということです。

8ページの「折り丁」の作り方 (横組の代表的な例)



歴史を重ねていくうちに、人が変

●記念誌で歴史を残す

企業や団体が二十年、三十年と

●出前でアドバイスを

自分史など本をつくりたいと考えている人のために、印刷担当者と編集者がお伺いしてアドバイスをいたします。グループでもどうぞお気軽にお申し込みください。

●小紙をお送りします

慌しい毎日に、ほっと一息つける話題を提供していきたいと願っている小紙です。ご希望の方に無料でお送りいたします。印刷紙工までお申し込みください。



本づくり質問箱

本づくりの「？」にお答えします。お気軽に質問をお寄せください。



本づくりに関する新聞広告などを見ていると、主に自分史ばかりです。一生に一度あるかないかの機会ですので、どうせつくるならそれこそ自分らしいものにしたいと思っています。どんな例があるのか教えてください。

どんな本も作ることができる

おっしゃるとおりですね。何も自分史にこだわらなくても、世界にたった一冊しかない本をつくることはいくらでもできます。高齢社会を迎えて混沌とした世の中に、「署名入り」の人生を残したいというささやかな主張が、自分史づくりに凝縮してしまったようです。

自分史の次に考えられるのは趣味の領域

です。俳句や短歌、小説、随筆などの創作部門はいかがでしょうか。ある程度、書き溜めておくことも必要ですが、目標を持って取り組めば近い将来の実現は可能です。旅行記や写真集、画集なども作品を選んだりどのように構成するかを考えたりで、編集作業も楽しいでしょう。



続いて自分の周囲を見渡してみると、子供や孫の成長記録、親しかった故人をしのぶ遺稿集、グループで何かのテーマで原

稿を持ち寄っての記録集なども考えられます。さらには会社や所属団体の記念誌。長い歴史をまとめて未来にパトタッチです。企画と見本をそろえて印刷会社に相談してみましよう。